

ローマのバロック様式を巡る (2) トレヴィの泉からクイリナーレの丘へ

藤原 道夫

観光目的でローマを訪れる人たちの多くは、トレヴィの泉の前に立つだろう。

狭い路地を抜けると彫刻群が目に入り、豊富に流れ落ちる水の音が聞こえてくる。さほど広くないスペースに人々が群がっている。トレヴィの泉だ。建物のアーチ下にひと際大きな海神オーケアノス像が立ち、周りの彫刻群から水が溢れ出ている。しばし水音を聞きながら見とれる。この泉はニコラ・サルヴィの設計を基に 1762 年に完成した。それ以前に法王の命でベルニーニが関与した時もあったよう。いずれにしろバロック様式の傑作とされる。水は帝政時代に造られた水道橋を通して供給されている。

訪ねる度に後ろ向きにコインを 1 枚池に投げ入れて去る。Arrivederci!

すぐ傍の教会脇から細い道をたどり、石段を登ってクイリナーレの丘に向かう。登り切った所で振り向くと、サン・ピエトロ寺院のクーポラが目飛び込んでくる。ローマで最も高い丘だが、建物のせいで視界は一方向にしか開けていない。広場に巨人の横で馬が前脚を上げている高さ 5 m 余の彫像（ディオスクーリ）が 2 基立ち、真ん中にオベリスクが高く聳える。その裏手にフォロ・ロマーノから運ばれた大きな御影石の水盤が置かれ、水がちよろちよろ流れている。これらは 18 世紀に法王の命により配置された。この広場は、古代の遺物を再利用してバロック様式にアレンジされているよう。ローマの歴史に思いを馳せる。

すぐ横に建つ大統領官邸の前を歩いてしばらく行くと、右手にサントンドレア・アラ・クイリナーレ教会のファサードが見える。石段を上がり狭い門から中へ。地形のせいで内部は横に広がる楕円形となっている。クーポラ下部の窓やその上の塔の窓から光が入り、金色の壁、石膏彫刻、色大理石の壁龕などバロック様式の装飾が明るく見える。ベルニーニがこの教会を自身の代表作とよんだだけに、見飽きない空間だ。

通りをさらに進むと、四隅に噴水のある交差点に達する。右手に見えるサンカルリーノ・アッレ・クワットロ・フォンターネ教会のファサードは、ベルニーニをライバル視していたフランチェスコ・ボッロミーニが設計した。彼はベルニーニにはとても敵わないと観念したのか、67 歳で自殺してしまう。未完の部分は後継者により完成された。内部と回廊は、どちらも狭くて簡素ながら、バロック様式の香りが漂っている。